

共産党系団体より評議々々政治研究会、無産青年同盟、水戸社、無産者同盟等の四団体は絶作に排除する旨を主張し農民組合、水好、三宅、一山、上武雄、莊系達、前川正一等は何れも口々に右四団体の加入を排除し多くの力を以て共産系分子を全く防止し得たりと言ふ事を得ず。故に共産系の色彩を有する大頭株の力を拒絶し残餘は悉く開放的加入せしむることか多数党员を得る意味に於て有利なりと反対し論纏らう午後四時隊長は休憩を宣し其間總同盟、農民其他中多の三派に分れ各別室に於て協議し更に総同盟、西尾、農民須、永前川、官業川村、総幹合坂下り五名は代表的に會合し川村は中二

2.

田親談会の申合せを實現する為め又政党内より健全なるしあるためには四団体を暫時加入せしめざること、但し、党員が二十万人以上とすれば共産系を首領を除く一般の會員は之を加入せしむることには如何と提議せるが、永前川は党員二十万に達する迄には少くとも十年を要す且、暫時四団体を加入せしめざると云ふは結局永久に加入せしめずと云ふに異ならずと云ふ對せるも、代表的會合に決裂を以て再三派各別の対策協議に入り總同盟は山名義鶴、望月淳佐、志を固きて馳せ若し密議を凝らし居たるが午後四時國會官業川村保太郎は代表的會合に提案せる事項を「一、吾々は一般に内、戸を解放す、二、玉姫俱樂部の申合せを具體化する、方法として此の政党内の基礎が